

# 鳥取県への中国人観光客誘致についての調査研究

とっとり政策総合研究センター 客員研究員 王 暁 峰  
(中国・吉林大学東北亜研究院 派遣)

## 【要旨】

国際観光は世界経済、国際貿易に影響するだけでなく、グローバリゼーションの中でより重要な役割を果たしている。このため、各国がますます観光業を重視するようになってきている。日本は、中央政府だけではなく各自治体も観光客の増加に努めている。一方、中国からの海外観光は、1990年代以降の経済成長及び海外観光規制の緩和に伴って急速に発展してきた。収入、制度、交通、時間、安全などの要因から、訪日中国人観光客も増加しており、また、今後も大幅に増加すると考えられる。本稿では中国における国際観光の動向をデータ及び先行研究などから整理すると共に、2008年12月に中国吉林省長春市で行った鳥取県への観光をテーマとするアンケート調査を通して、中国人観光客の国際観光に対する傾向を分析すると共に、鳥取県への観光客誘致施策の具体化に向けて提言を行いたい。調査結果から見れば、長春市民にとって鳥取県の観光資源は、日本の他地域の観光資源と比較して、相当程度魅力があるといえる。鳥取県内観光資源の範囲で、鳥取独特の観光地である鳥取城跡、水木しげるロード、鳥取砂丘などが人気となったのだと考えられる。半数以上の回答者が、条件がそろえば鳥取へ観光に行く意向を表した。鳥取独特の観光資源に基づいて、ニーズに応えた観光コースを設計して、友好交流関係にある地域の地方政府、旅行会社の力を借りて大いに鳥取を宣伝して、様々な交流を通じて、既存の国際交通を改善すれば、中国からの観光客の増加は十分期待できるものと考えられる。

## 1. はじめに

観光、とりわけ国際観光は現在、世界的に注目されるグローバリゼーションの一側面といえる。世界貿易機構（WTO）の統計によれば、2006年における、全世界の国際観光収入（国際観光収入と国際旅費の合計）は1兆3,750億米ドルに達し、世界貨物とサービス貿易額（輸出額）の9.7%を占める。国際観光は自動車、鉄鋼などの輸出額を上回って、

国際貿易上、燃料、通信機材、機械（通信機材と自動車を除く）に次ぐ4番目の地位を占めている<sup>1</sup>。国際観光は世界経済、国際貿易に影響するだけでなく、グローバリゼーションの中でより重要な役割を果たしている。

このため、各国がますます観光業を重視するようになってきており、日本もまたそうした流れの中で例外ではない。2003年に日本政府は「観光立国」を打ち出し、さらに2010年までに

1 日本政府観光局（JNTO）（2008：19）。

訪日外国人観光客を1,000万人に増やすという目標を掲げている。2008年10月に日本政府は観光庁を設立した。中央政府だけではなく各自治体も観光客の増加に努めている。

鳥取県の場合、JNTOの調査によれば、2005年、2006年鳥取県の外国人観光客訪問率は各自治体の中で最下位にあり、0.1%、0.2%しかないが、1位の東京は58.5%、57.4%もある<sup>2</sup>。このため、如何に外国人観光客を誘致するかが鳥取県の課題となっている。日本の近隣国として、経済成長及び海外観光規制の緩和に伴い、海外へ観光に出る中国人が急速に増加している。この現象は中国政府、観光業者と国民の関心と呼んだだけではなく、巨大な潜在市場と認識され、日本にも注目されるようになってきている。そのため、本稿では中国における国際観光の動向をデータ及び先行研究などから整理すると共に、2008年12月に中国吉林省長春市で行った鳥取県への観光をテーマに行ったアンケート調査を通して、中国人観光客の国際観光に対する傾向を分析すると共に、鳥取県への観光客誘致施策の具体

化に向けて提言を行いたい。

## 2. 訪日中国人観光客の規模と傾向

### 2.1 中国における海外観光の増加

中国からの海外観光は、1990年代以降の経済成長及び海外観光規制の緩和に伴って発展してきた。中国人（大陸部の住民を指す）の海外観光は主に3つの類型が上げられる。その1、台湾、香港、マカオへの観光。その2、周辺諸国への国境観光（対象国の国境町が目的地的）。その3、その他の国への観光。このように3つの類型が含まれるため、中国の統計では「出国観光」ではなく、「出境観光」と表示されている。中国国家旅遊局は1992年から海外観光に関する統計資料を公開しており、そこからも海外観光の増加ぶりが伺われる（表1参照）。

中国における出境観光人数には2つの特徴が見られる。まず、全体的に人数が急速に増加していること。1998年以降、年間増加はほぼ100万人を超え、2000年の海外観光人数は1,000万人に上った。また、2003年からは2年

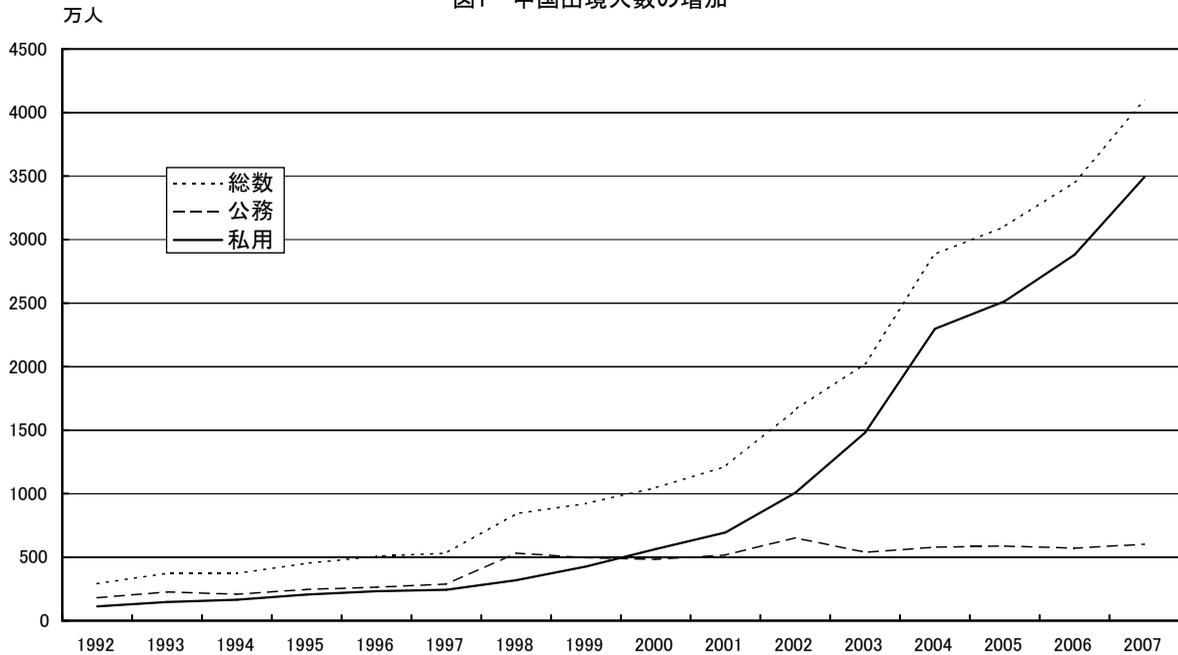
表1 中国出境人数の増加（万人）

年次	出境人数	増加率 (%)	公務出境人数	増加率 (%)	私用出境人数	増加率 (%)
1992	292.87	-	180.94	-	111.93	-
1993	374.00	27.7	227.38	25.7	146.62	31.0
1994	373.36	-0.2	209.13	-8.0	164.23	12.0
1995	452.05	21.1	246.66	17.9	205.39	25.1
1996	506.07	12.0	264.68	7.3	231.34	12.6
1997	532.39	5.2	288.43	9.0	243.96	5.5
1998	842.56	-	532.53	-	319.02	-
1999	923.24	9.6	496.63	-6.7	426.61	33.7
2000	1,047.26	13.4	484.18	-2.5	563.09	32.0
2001	1,213.44	15.9	518.77	7.2	694.54	23.3
2002	1,660.23	36.8	654.00	26.1	1,006.00	44.9
2003	2,022.19	21.8	539.65	-17.5	1,481.09	47.2
2004	2,885.29	42.7	579.40	7.4	2,297.90	55.1
2005	3,102.63	7.5	588.63	1.6	2,514.00	9.4
2006	3,452.36	11.3	572.44	-2.8	2,879.91	14.6
2007	4,095.00	18.6	603.00	5.3	3,492.00	21.3

注：1998年以降は統計方法が変わり、それまでの直接比較はできない。  
出所：国家旅遊局『中国旅遊年鑑』各年、『中国統計年鑑』各年、より作成。

2 前掲（2008：58）。

図1 中国出境人数の増加



出所：国家旅游局『中国旅遊年鑑』各年、『中国統計年鑑』各年、より作成。

間で1,000万人となった。公務は1998年からほぼ横ばいで推移しているが、私用は2000年に公務を超え、その後も持続的に増加してきた。私用は大半が観光客だと考えられる。

中国の出境観光人数は急激に増加しているが、出境率（出境人数が全人口に占める比率）にしても、世界国際観光人数に占める比率にしても、依然大きな存在とはいえない。しかしながら、将来引き続き大きな成長が期待できるはずである。

出境率から見れば、2005年中国の出境率は2.4%と非常に低い<sup>3</sup>。世界最高のハンガリーは184.4%、アジア最高のシンガポール、マレーシアは118%、韓国は20.9%、日本は13.6%である。中国人口の中では、出境者はわずかしかない。都市部だけで計算してみよう。総人口約13億人のうち、4割程度は都市人口である。出境者が全員都市部住民だとしても、2007年の実績では、都市人口の約7%程

度に止まっている<sup>4</sup>。この数字は、日本、韓国と比べても大きな差がある。

中国人出境者が世界国際観光人数に占める比重は、2005年全世界国際観光人数8.08億人中<sup>4</sup>、中国人出境者は3,102万で、その3.84%に留まっている。世界銀行の報告書によれば、2003年ドイツ、英国の海外観光客はそれぞれ7,460万人、6,145万人で、ポーランド、チェコでも3,873万人、3,607万人となっている<sup>5</sup>。

つまり、中国における海外観光はスタートしたてであり、それゆえ、将来は大幅な増加が見込まれるものと考えられる。

## 2.2 訪日中国人観光客の増加

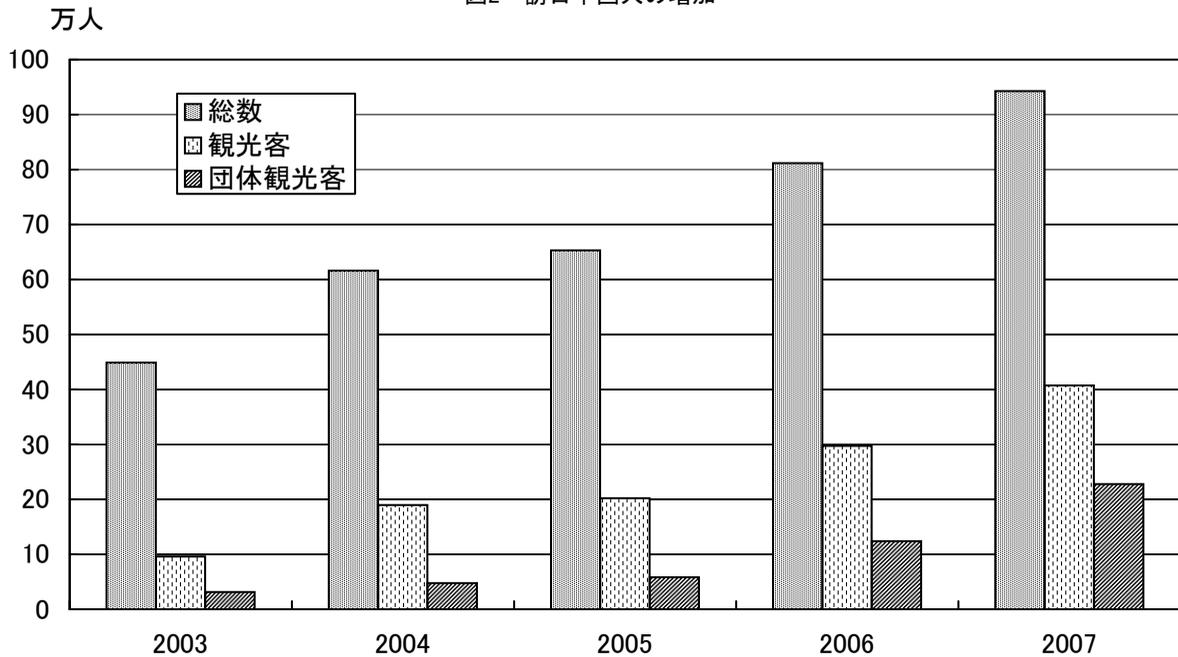
日本法務省及び国土交通省の統計によれば、訪日中国人は1994年の時点で20万人足らずであったが、その後、増加の一途をたどっている。2000年9月に中国人団体観光を受け入れてから、増加が顕著になり2007年は94万

3 独立法人国際観光振興機構（JNTO）（2007：512）。

4 Wang（2007：72-80）。

5 汪徳根（2004：124-128）。

図2 訪日中国人の増加



出所：日本政府観光局『国際観光白書』2008年、p184, 185。

表2 訪日中国人の増加

		総数	観光客	団体観光客
2003	人数(人)	448,782	95,991	31,181
	構成比(%)	100.0	21.4	6.9
	伸び率(%)	-0.8	-5.2	-6.9
2004	人数(人)	616,009	189,692	47,488
	構成比(%)	100.0	30.8	7.7
	伸び率(%)	37.3	97.6	52.3
2005	人数(人)	652,820	201,940	58,244
	構成比(%)	100.0	30.9	8.9
	伸び率(%)	6.0	6.5	22.6
2006	人数(人)	811,675	297,025	123,955
	構成比(%)	100.0	36.6	15.3
	伸び率(%)	24.3	47.1	112.8
2007	人数(人)	942,439	407,286	227,869
	構成比(%)	100.0	43.2	24.2
	伸び率(%)	16.1	37.1	83.8

出所：日本政府観光局（JNTO）『国際観光白書』2008年、p184,185。

人になっている。訪日中国人の構成では、観光客の比重が上昇している。表2で示したように、2007年訪日中国人の40%以上が観光客であり、観光客の増加率は2006年、2007年はそれぞれ47.1%、37.1%の高水準に達した。2007年、訪日中国人観光客4人のうち1人が団体観光客であり、団体観光客の増加率は2006年、2007年にはそれぞれ112.8%、83.8%に

達した。

日本へ観光に出る中国人が増加する主な原因として収入、制度、交通、時間、安全などが挙げられる。収入面では、2003年中国の1人当たりGDPは1,000米ドルに、2006年は2,000米ドル達した。一人当たりGDPと海外観光との相関分析では、一人当たりGDPが1,000米ドルに達すれば、海外観光需要が大きく伸張することが言われている<sup>6</sup>。中国における都市部と農村部、及び地域間の格差を考慮に入れば、実際は都市部と東部地域は1990年代半ばにすでに一人当たりGDPが1,000米ドルに達した。このように中国の訪日観光客の増加は人々の収入の増加と密接に関連する。

制度面では、中国政府は1997年から「中国公民自費出国旅遊管理暫行方法」を実施し、海外観光に対する規制を緩和した。その後、旅券、外貨規制も緩和された。一方、中国人

6 梁春香（2008：57）。

観光客を誘致するために、日本政府は中国人に対して入国政策を修正した。2000年9月から中国一部地域の住民を対象に団体観光ビザを発行し、2005年7月にこれが大陸の全地域に適用拡大された。2004年夏からは訪日修学旅行の小中学生がノービザで日本に入れるようになった。中日両国政府の政策修正により、中国人の訪日が以前と比べて容易になり、その規模も着実に拡大されてきた。

交通面では中国と日本は近隣であり、数多くの航路で結ばれているため、これも中国人が日本へ観光に出る原因の一つになっている。2007年1年だけで、新設航路及び既存航路の便数増加によって、両国間では毎週の定期航路が79便も増えた<sup>7</sup>。他にも、既存航路の延長とチャーター便が存在する。2000年以降、中国人海外観光目的地の順位では、香港とマカオを除いて、日本は常に4位となっている（前3位はシンガポール、タイ、韓国）。

時間でいえば、中国人の休暇時間が増加しているのも無視できない。現在、年間では週休2日以外に、11日の祝日が休められる。7日間連休が2つと3日間連休が5つ現れている。また有給休暇制度も確立された。

安全面では、日本は社会が安定しており、治安も良好であることで知られていて、さらに、自然環境と衛生状況が信頼できるので、理想的な観光地と考えられている。

以上の要因から、訪日中国人観光客は増加しており、また、今後も大幅に増加すると考えられる。世界観光機関（UNWTO）の調査によれば、2020年の中国の海外観光客数は1億人に上るとされている<sup>8</sup>。1994年～2007年の間、訪日観光客が海外観光客全体の2.15%

～5.09%を占めることから推計すれば、2020年訪日中国人観光客数は少なくとも215万人から509万人になるものと考えられる<sup>9</sup>。

別の面からでも訪日中国人観光客の増加が見られる。中国人観光客に便宜を図るために、日本のデパートと電気売り場では中国の「銀聯カード」を使用できる店が多く現れた。「銀聯カード」は中国の銀行が発行するクレジットカードで、国内では約16億枚が発行されている。2005年12月に「銀聯カード」が日本で業務を開始した時、協力店舗は200社しかなかったが、2008年7月、ホテルと地方の店を含む「銀聯カード」の協力店舗は1.6万社に膨らんだ。2007年「銀聯カード」消費は約40億円で、2008年は100億円を突破すると予測されている<sup>10</sup>。

### 3. 鳥取県観光資源の魅力についてのアンケート調査——長春市市民を対象に

このように、対日観光という側面から中国観光客の動向は無視できないものになってきている。しかしながら、鳥取県への外国人観光客の来客数は47都道府県中最下位に位置しており効果的な施策を探る必要性があるものと考えられる。このため、本稿では中国における鳥取県の観光認知度および魅力を調査するため鳥取県と友好交流関係がある中国吉林省長春市で無作為で回答者を選出して、アンケートを実施した。調査の具体的な目的としては、鳥取県が持つ観光資源は日本の他の地域と比べて魅力があるか、鳥取県内の観光資源の中で長春市民（潜在的観光客）が体験したいものは何か、長春市民は鳥取県へ観光に

7 日本政府観光局（JNTO）（2008：38-39）。

8 UNWTO（1997：www.world-tourism.org）。

9 Wang（2007：72-80）。

10 日本「富士産経商報」（2008）。

行く意向が有るかなどである。

長春市は中国東北部にあり、東北平野の中心に位置している吉林省の省都である。人口は745.9万人で、そのうち市区人口は358.1万人(2007年)である。土地面積は20,604平方キロメートルで、そのうち市区面積は3,911平方キロメートル(2005年)である。1人当たりGDPは28,131元(2007年)である。長春市には国立大学が2つあり、そのうち吉林大学の東北亜研究院はとっとり政策総合研究センター(TORC)、鳥取大学地域学部と友好交流協定を結んでおり、東北師範大学は鳥取県庁から派遣した語学留学生を受け入れている。

長春市民が鳥取県についてよく知らないことを想定し、アンケートでは鳥取県の位置、交通、特徴などを簡単に紹介した。

調査は2008年12月24日～29日にわたって実施し、吉林大学東北亜研究院の院生に調査に協力してもらった。実施場所は長春市区のデパート、学校、駅、政府部門、病院などを含む。回答者を無作為で選出し、計370部の有効回答を回収した。

### 3.1 回答者の基本情報

有効回答者370人のうち、訪日経験がある者は20人で、全体の5.4%を占める。鳥取県を知っているのは39人で、全体の10.5%を占める。アンケートは性別、年齢、職業、学歴、世帯一人当たり収入など5項目の個人情報を含む。

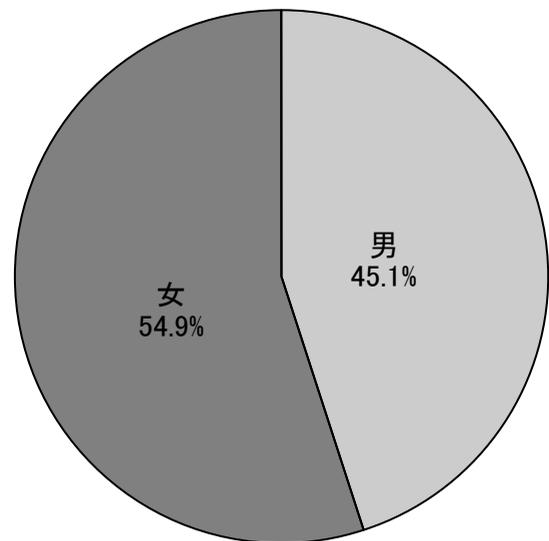
#### 3.1.1 性別特徴

表3、図3は回答者の性別分布である。回答者のなかでは女性の比重が男性より9.8ポイント高いが、基本的に同じ程度と言えよう。

表3 回答者の性別分布

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男性	167	45.1
2	女性	203	54.9
	全体	370	100

図3 回答者の性別分布



ント高いが、基本的に同じ程度と言えよう。

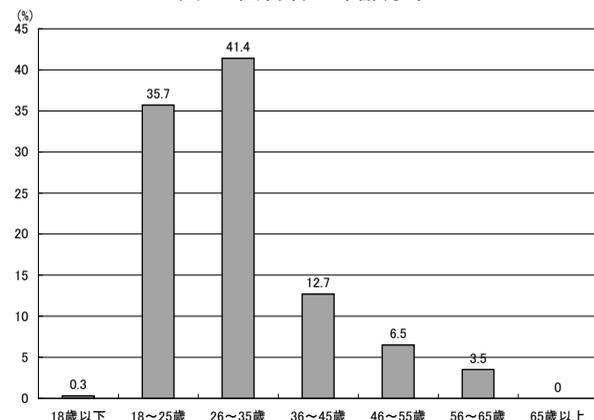
#### 3.1.2 年齢特徴

表4、図4が示したとおり、回答者の年齢分布では、若年から青年層が大半を占める。そのうち、18～25歳、26～35歳組の人数が比較的多く、それぞれ全体の35.7%と41.4%を占

表4 回答者の年齢分布

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	18歳以下	1	0.3
2	18～25歳	132	35.7
3	26～35歳	153	41.4
4	36～45歳	47	12.7
5	46～55歳	24	6.5
6	56～65歳	13	3.5
7	65歳以上	0	0
	サンプル数(%ベース)	370	100

図4 回答者の年齢分布



めて、合計で全体の77%を占める。収入などを考えれば、18～25歳、26～35歳層は36～45歳、46～55歳層と比較して、消費力が大きいとはいえないが、今後の観光客の潜在的傾向を表すものと期待できる。

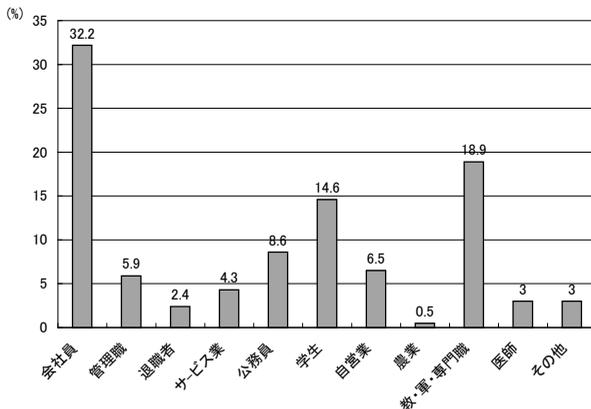
### 3.1.3 職業特徴

回答者の職業分布は比較的集中していて、会社員が32.2%、教師・軍人・専門職が18.9%、学生が14.6%で、三者合計で全体の65%を占める。他の職業が占める比重は低い。

表5 回答者の職業分布

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	会社員	119	32.2
2	管理職	22	5.9
3	退職者	9	2.4
4	サービス業	16	4.3
5	公務員	32	8.6
6	学生	54	14.6
7	自営業	24	6.5
8	農業	2	0.5
9	教師・軍人・専門職員	70	18.9
10	医師	11	3
11	その他	11	3
	サンプル数 (%ベース)	370	100

図5 回答者の職業分布



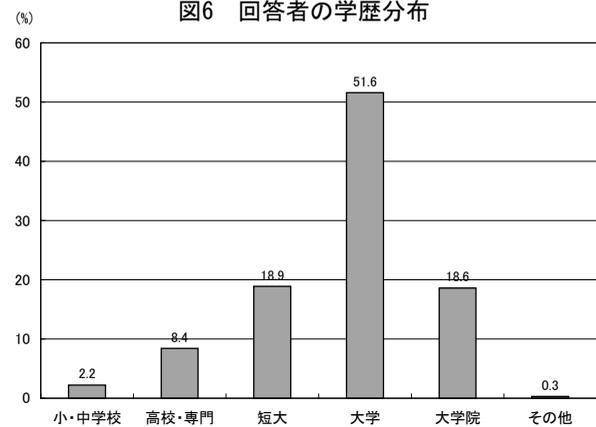
### 3.1.4 学歴特徴

回答者の学歴は比較的、高学歴に集中している。そのうち、大学卒は半分を超え、短大・大学・大学院卒が合計で全体の90%弱を占める。

表6 回答者の学歴分布

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	小・中学校	8	2.2
2	高校・専門学校	31	8.4
3	短大	70	18.9
4	大学	191	51.6
5	大学院	69	18.6
6	その他	1	0.3
	サンプル数 (%ベース)	370	100

図6 回答者の学歴分布



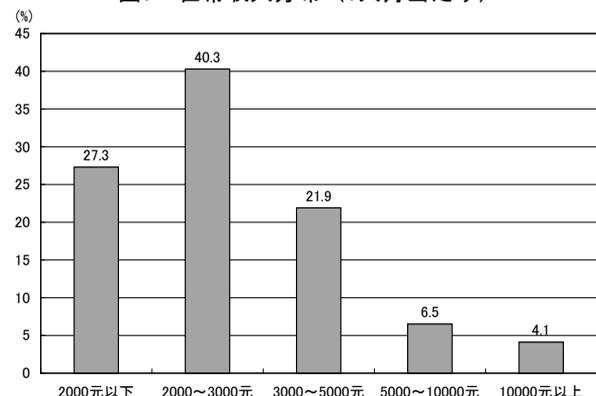
### 3.1.5 世帯収入特徴

回答者の世帯平均月収入は主に5,000元以下であり、全体の90%弱を占める。そのうち、一人当たり収入が2,000～3,000円の世帯が最も多く、40.3%を占める。次は一人当た

表7 回答者の世帯収入分布 (1人月当たり)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	2,000元以下	101	27.3
2	2,000～3,000円	149	40.3
3	3,000～5,000円	81	21.9
4	5,000～10,000円	24	6.5
5	10,000円以上	15	4.1
	サンプル数 (%ベース)	370	100

図7 世帯収入分布 (1人月当たり)



り収入が2,000元以下の世帯で、27.3%である。客観的に言えば、回答者は基本的に平均収入水準以上の世帯だと考えて良い。参考に、長春市区の平均収入は月給1,250元（2008年）で、吉林省都市部の平均月給は940元（2007年）、中国都市部の平均月給は1,315元（2008年）である。

### 3.2 鳥取県と日本他地域の観光資源との比較

長春市民にとって鳥取県の観光資源に魅力があるか否かを確かめるために、アンケートは鳥取県及び日本の他の地域の代表的な観光資源を実感的に分かってもらえる写真を使った。回答者にこれらの写真の魅力を評価してもらい、その結果を比較する。

実施の際、日本の観光資源として、調査員が鳥取県の代表的な観光資源の写真と日本の他の地域の写真計18枚を回答者に見せる。それぞれ具体的にどこなのか何物なのかを説明せずに、回答者に自由に魅力を評価してもらうことにした。評価する際、5のランクを設定した（1は完全に魅力なし、2は魅力なし、3は普通、4は魅力あり、5は非常に魅力あり）。

提示した18枚の写真のうち、1～8は鳥取県以外の日本他の地域の代表的な観光資源である。

- 1は東京ディズニーランドで、テーマパーク、遊楽園を代表する。
- 2は広島平和公園で、ランドマークをもつ都市を代表する。
- 3は富士山で、有名な山岳を代表する。
- 4はスキー場を代表する。
- 5は日本料理を代表する。
- 6はモダンな大都会を代表する。
- 7は京都の金閣寺、伝統的な建築及び宗教建築を代表する。
- 8は商店街、ショッピング街を代表する。
- 9～18は鳥取県の代表的な観光資源の写真である。
- 9は水木しげるロード及び漫画鬼太郎に関

連する観光地。

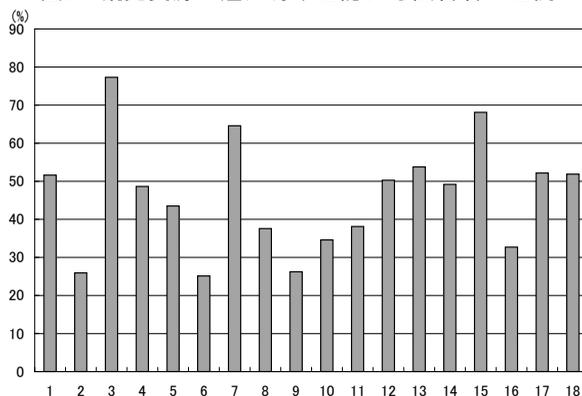
- 10は鳥取城跡。
- 11は鳥取砂丘。
- 12は倉吉の白壁土蔵群。
- 13は白兔海岸。
- 14は松葉蟹。
- 15は鳥取温泉。
- 16は青山剛昌記念館及び漫画名探偵コナンに関連する観光地。
- 17は大山。
- 18是三徳山投入堂。

回答者が選んだ魅力度を元に、各観光資源魅力度の平均値を算出する。平均値を比較して、18の観光資源に魅力度順位を確定する。平均値が大きいほど魅力があることを意味する。表8の結果から見れば、鳥取県の観光

表8 回答者による観光資源魅力度評価

番号	平均値	標準偏差	平均値順位
1 ディズニーランド	3.527	0.960	5
2 広島平和公園	2.908	0.941	18
3 富士山	4.046	1.026	1
4 スキー場	3.403	0.992	9
5 日本料理	3.346	1.128	11
6 モダンな大都会	2.981	0.983	16
7 京都金閣寺	3.738	0.919	3
8 商店街	3.178	1.039	12
9 水木しげるロード	2.932	1.032	17
10 鳥取城跡	3.086	1.030	14
11 鳥取砂丘	3.141	0.972	13
12 倉吉の白壁土蔵群	3.454	0.889	8
13 白兔海岸	3.549	0.982	4
14 松葉蟹	3.392	1.141	10
15 鳥取温泉	3.876	1.054	2
16 青山剛昌記念館	3.057	1.044	15
17 大山	3.511	1.047	6
18 三徳山投入堂	3.489	1.057	7

図8 観光資源に魅力ありと認める回答者の比例



資源は相当魅力があることが分かる。18の観光資源を平均値によって前9位と後9位に分ける。前9位には鳥取県観光資源が5つ入っているのに対し、他の地域は4つである。1、3、5位にあったのは富士山、金閣寺、ディズニーランドであり、日本の代表的な観光地で、日本のシンボルとも言え、当然のことであろう。2、4、6、7、8位にあったのは全部鳥取県の観光資源で、後9位には鳥取県が5、他の地域が4あった。

また、図8の示したとおり、回答者が選んだ5のレベル（完全に魅力なし、魅力なし、普通、魅力あり、非常に魅力あり）では、鳥取県の10の観光資源の中では、6が50%以上或いは50%弱の回答者に魅力あり（魅力あり、非常に魅力あり）と認められ（写真12、13、14、15、17、18である）、残った4のうちも3が30%以上の回答者に認められた（写真10、11、16である）。1つだけは評価が低いにしても、魅力ありと認めた人が25%を超えている。

結果から見れば、長春市民にとって鳥取県の観光資源は相当程度魅力があり、日本の最も有名な観光資源にも劣らないほどである。

### 3.3 鳥取県内代表的観光資源の比較

回答者の鳥取県観光資源に対する評価から県内各観光地を比較することができる。広報及び観光路線を設計する場合、この比較に基づき、期待される観光地を重点的にアピールすれば効果的だと考えられる。

この質問をする時、調査員はもう一度、回答者に写真を見せる。前回とは違って、今回

は鳥取県の観光資源だけを提示し、なおかつ写真に説明がつけられている。10の写真から最も体験したい3つを選んでもらった。選ばれた比率では、図9の通り、鳥取城跡（写真10）、大山（写真17）、水木しげるロード（写真9）、三徳山投入堂（写真18）は10%を超えた。鳥取砂丘（写真11）、倉吉の白壁土蔵群（写真12）、鳥取温泉（写真15）、青山剛昌記念館（写真16）は5%～10%の間で、日本料理松葉蟹（写真14）、白兔海岸（写真13）は5%以下となった。

この設問では、前回に写真を見たときの判断とは結果が一致しない。例えば鳥取温泉と白兔海岸に対する評価は前は非常に高かったが、今回は低い。なぜかと言えば、前回では鳥取の観光地とは説明しなかったため、鳥取の観光地ではなく「日本」の観光資源だと思われたためだと考えられる。日本の温泉、海水浴場などの観光資源は広く知られているので、高く評価された。しかし鳥取県内観光資源の範囲で比較する場合、意識的に鳥取県の特徴を代表する観光地を選んだと考えられ

図9 鳥取県各観光資源魅力比較

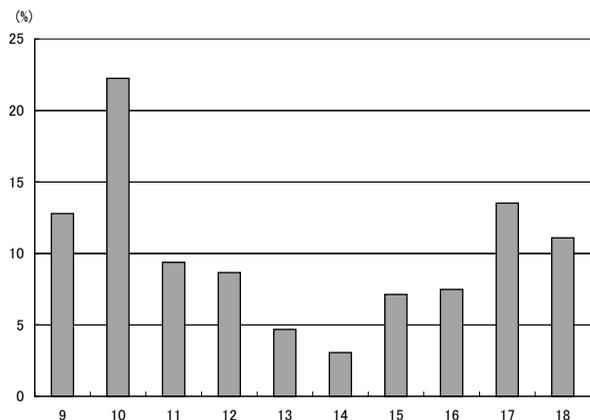


表9 鳥取県各観光資源魅力比較

写真番号	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	合計
一にした人数	142	162	32	18	8	3	2	3	0	0	370
二にした人数	0	85	62	52	32	25	38	38	38	0	370
三にした人数	0	0	10	26	12	6	39	42	112	123	370
合計	142	247	104	96	52	34	79	83	150	123	1110
%	12.79	22.25	9.37	8.65	4.68	3.06	7.12	7.48	13.51	11.08	100
順位	3	1	5	6	9	10	8	7	2	4	-

る。すると温泉、海水浴場、日本料理など日本どこでもありそうな観光資源は得点が下がり、逆に鳥取独特の観光地である鳥取城跡、水木しげるロード、鳥取砂丘などが人気となったのだと考えられる。

#### 4. 回答者の選択からみる鳥取県へ観光する可能性

##### 4.1 鳥取県へ観光に行く意向が有るか

長春市民が鳥取県へ観光に行く意向が有るかないか及びその理由を知るために、アンケートで「もし鳥取県へ観光する費用が日本の他の地域と同様であれば、日本へ観光に行く時に鳥取県を考えるか」という質問を入れた。結果は表10の通りで、「はい」と答えた人は「いいえ」と答えた人よりやや多い。

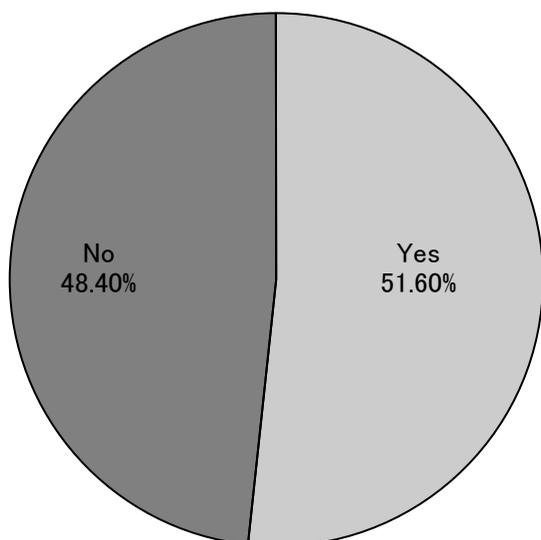
##### 4.2 鳥取県へ観光に行く或いは行かない理由

上の質問に答えるとともに、行くまたは行かない理由を説明してもらった。回答は表11

表 10 日本へ観光に行く時鳥取県に行く意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	Yes	191	51.6
2	No	179	48.4
	サンプル数 (%ベース)	370	100

図10 日本へ観光に行く時鳥取県に行く意向



と表12の示したとおりまとめてみた。鳥取県へ観光に行く人のあげた理由の中で、最も多いのは「風景が美しい」で、50%を超えた。「個人の経験を増やしたい」或いは「行ったことがない」と答えたのは10%を超えた。「異文化風俗を体験したい」と答えたのも10%を超えた。「漫画のコナンが好き」、「特徴がある」、「砂丘など独特のものがある」との回答もあった。それ以外に「飲食」、「費用が同じ」、「友人の推薦」などもあった。

鳥取県へ行かない理由の中では、多く見られるのは「知名度が低い」、「日本へ行くなら鳥取は最初の選択ではない」、「特色がなく魅力ない」であり、合計80%を占めた。その他の理由には「消費能力が足りない」、「時間がない」、「日本観光が嫌」、「観光が嫌」、「遠い」などがあつた。

表 11 日本観光際鳥取へ行く理由

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	風景が美しい	103	53.9
2	漫画のコナンが好き	9	4.7
3	個人の経験を増やしたい、或いは行ったことがない	22	11.5
4	飲食	2	1.0
5	特徴がある	10	5.2
6	異文化風俗を体験したい	21	11.0
7	砂丘など独特のものがある	15	7.8
8	費用が同じ	4	2.1
9	友人の推薦	3	1.6
10	無回答	2	1.0
	サンプル数 (%ベース)	191	100

表 12 日本観光際鳥取へ行かない理由

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知名度が低い	59	33.0
2	日本へ行くなら鳥取は最初の選択ではない	40	22.3
3	特色がなく魅力ない	45	25.1
4	消費能力が足りない	2	1.1
5	時間がない	5	2.8
6	日本観光が嫌	19	10.6
7	観光が嫌	2	1.1
8	遠い	3	1.7
9	無回答	4	2.2
	サンプル数 (%ベース)	179	100

### 4.3 鳥取県へ観光に行く或いは行かない 回答者の特徴

さらに鳥取へ観光に行く人と行かない人の個人的特徴について分析してみた。結果は表13から表17までのとおりである。性別では、男女ともYesがNoよりやや多い。年齢では、

表 13 性別別鳥取県へ観光に行く意向

	Yes	%	No	%	合計	%
男性	87	52.1	80	47.9	167	100
女性	104	51.2	99	48.8	203	100
合計	191	51.6	179	48.4	370	100

図11 性別別鳥取県へ観光に行く意向

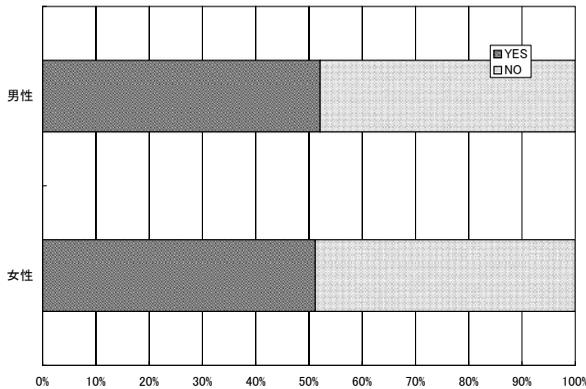
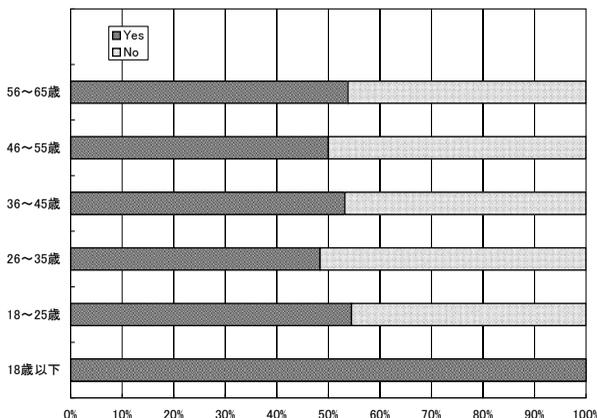


表 14 年齢別鳥取県へ観光に行く意向

	Yes	%	No	%	合計	%
18歳以下	1	100	0	0	1	100
18～25歳	72	54.5	60	45.5	132	100
26～35歳	74	48.4	79	51.6	153	100
36～45歳	25	53.2	22	46.8	47	100
46～55歳	12	50.0	12	50.0	24	100
56～65歳	7	53.8	6	46.2	13	100
65歳以上	0	0	0	0	0	0
合計	191	51.6	179	48.4	370	100

図12 年齢別鳥取県へ観光に行く意向



65歳以上の対象はおらず、18歳以下の対象は一人だけであった。26～35歳組ではYesがNoよりやや少なかったが、その他の年齢組では全て答えYesがより多かった。

職業では、会社員、退職者、公務員、学生、自営業、その他の6業種の回答者ではYesがNoより多い。管理職、教師・軍人・専門職員、医者3業種では逆にNoと回答した人が多い。サービス業、農業では両方が同じであ

表 15 職業別鳥取県へ観光に行く意向

	Yes	%	No	%	合計	%
会社員	69	58.0	50	42.0	119	100
管理職	9	40.9	13	59.1	22	100
退職者	6	66.7	3	33.3	9	100
サービス業	8	50.0	8	50.0	16	100
公務員	17	53.1	15	46.9	32	100
学生	32	59.3	22	40.7	54	100
自営業	17	70.8	7	29.2	24	100
農業	1	50.0	1	50.0	2	100
教師・軍人・専門職員	24	34.3	46	65.7	70	100
医師	2	18.2	9	81.8	11	100
その他	6	54.5	5	45.5	11	100
合計	191	51.6	179	48.4	370	100

図13 職業別鳥取県へ観光に行く意向

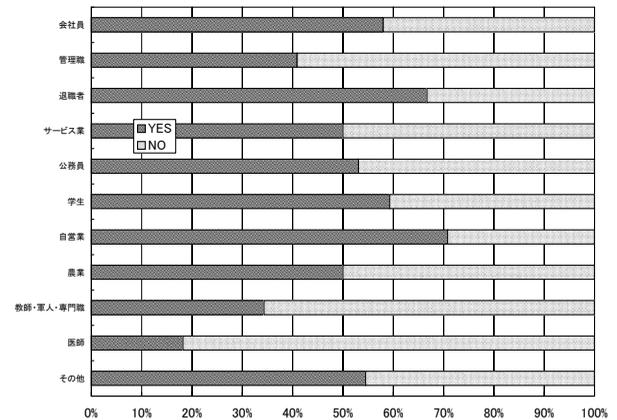


表 16 学歴別鳥取県へ観光に行く意向

	Yes	%	No	%	合計	%
小・中学校	5	62.5	3	37.5	8	100
高校・専門学校	22	71.0	9	29.0	31	100
短大	41	58.6	29	41.4	70	100
大学	96	50.3	95	49.7	191	100
大学院	27	39.1	42	60.9	69	100
その他	0	0	1	100	1	100
合計	191	51.8	179	48.2	370	100

る。学歴では、大学院生以外はどちらもYesが多いが、大学院生だけはYesが少ない。

収入では、世帯平均収入が2,000元以下の回答者ではNoの比率がやや高い。3,000～5,000元の回答者では明らかにNoの比率が高い。その他の収入層ではYesの比率がNoを上回っている。

## 5. 鳥取県の外国人観光客誘致策

鳥取県は外国人観光客を誘致するためにいろいろな施策を打ち出している。県庁文化観

図14 学歴別鳥取県へ観光に行く意向

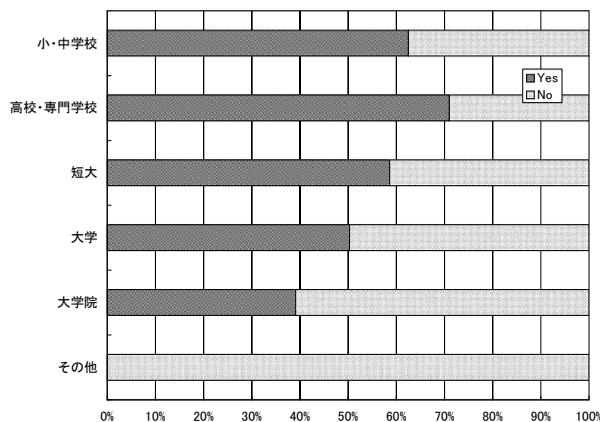
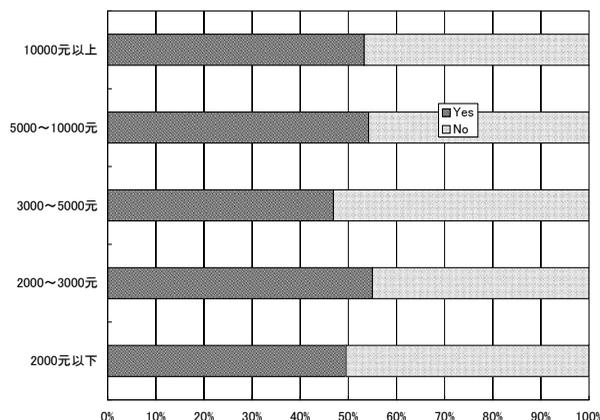


表17 収入別鳥取県へ観光に行く意向

	Yes	%	No	%	合計	%
2,000元以下	50	49.5	51	50.5	101	100
2,000～3,000元	82	55.0	67	45	149	100
3,000～5,000元	38	46.9	43	53.1	81	100
5,000～10,000元	13	54.2	11	45.8	24	100
10,000元以上	8	53.3	7	46.7	15	100
合計	191	51.6	179	48.4	370	100

図15 収入別鳥取県へ観光に行く意向



光局観光政策課でヒアリングした際、以下のような行動を取ったと教えられた。すなわち、1) 一般消費者、観光業者、マスコミなどに向けて鳥取県独自の魅力ある観光資源の情報を提供する、2) 鳥取県の観光資源を元に魅力的な観光プロジェクトを開発し、体験型教育観光を誘致する、3) 島根県、兵庫県、京都府、岡山県など隣県との広域提携を推進させ、観光路線の協力及び協力可能性について検討する、4) 国内外で「漫画王国鳥取」をアピールして鳥取県の知名度向上を図り、観光客を誘致する、5) 米子—ソウル国際定期航路を利用して、乗り換え旅客を含む海外観光客を増やす、6) 北東アジア観光フォーラムを通じて地域間の協力関係を築き、チャーター便で観光客を誘致する、などが上げられた。

これらの施策はすでに実施しているものもあれば、検討中のものもある。鳥取県を訪れる外国人人数に関する統計データを入手できなかったため、国土交通省の資料を参考するほかないが、宿泊登録によれば、2007年鳥取県で宿泊した観光客は1万4千人となっている（観光政策課提供）。鳥取県では、観光推進策の実施により今後、より一層の外国人観光客の誘致を実現することを目指している。

## 6. 中国人観光客誘致の対策提言

これまでの調査を踏まえて、最後に中国人観光客を鳥取県に呼び込むための具体的提言に移ろう。

まずは、広報宣伝の強化が挙げられる。アンケート調査の結果で分かるように、鳥取県と友好交流関係のある吉林省の省都——長春市でさえ鳥取県を知っている回答者は10%しかいなかった。こうしたことから、中国および諸外国の観光客に対して鳥取県の知名度を高めることは喫緊の課題といえる。その中で

表 18 日本及び日本観光情報の入手ルート

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	雑誌・ガイドブック	49	13.2
2	新聞・テレビ	111	30.0
3	友人	69	18.6
4	インターネット	69	18.6
5	映画	47	12.7
6	政府・行政の宣伝	2	0.5
7	旅行会社	7	1.9
8	その他	16	4.3
	サンプル数(%ベース)	370	100

も、鳥取県及びその観光資源の宣伝は、吉林省など友好交流関係にある地域に重点をおくべきだと言える。宣伝もさまざまなルートを考慮すべきである。調査では(表18)、政府部門、旅行会社から日本及び日本観光に関する情報を入手する比率が非常に低いことが分かる。しかし観光業の発展においては、政府部門はきわめて重要な役割を果たしている。吉林省政府、旅行会社の力を借りて大いに鳥取を宣伝すれば効果的ではないかと思う。また、新聞・テレビからの情報入手は最も高いため、広報宣伝の手段として、新聞・テレビの積極的利用が必要となる。

次は便利な交通手段である。鳥取県は米子—ソウル便を非常に重視しているが、吉林省の長春龍嘉空港と延吉空港からはソウルへ国際定期便が飛んでいる。長春—ソウル間は毎日就航しており、飛行時間は1時間50分である。延吉—ソウル間は週3便の就航で、飛行時間は1時間30分である。ソウル—米子便は1時間30分で、時間を調整して乗り継ぎが便利になれば、吉林省から鳥取県への航路は十分考えられる。また、鳥取県と吉林省とも北東アジア地方政府観光フォーラムのメンバーであることから、今後は直行チャーター便の開通も検討すべきである。それから、2009年5月に開通予定のウラジオストク(ロシア)—東海(韓国)—境港海上定期航路を活用すれば、鳥取県を含む国際間航路線が活躍できる。

第3に、他の自治体と広域提携を形成することが挙げられる。例えば鳥根県、兵庫県、京都府、岡山県など近隣諸県との連携、また、強いては国際的な提携も考えるべきである。例えば、北東アジア地方政府間観光フォーラムメンバーとの提携などが挙げられる。鳥取県だけの観光よりも、このような数地域を繋げる観光コースのほうがより魅力的であり、特に初めて訪日する中国人観光客にとってその意味は大きい。

第4に、初めての訪日者とそうでない訪日者を区別することである。調査では、半数近い回答者は鳥取へ行かない意思を表した。そのうち、22%の回答者は「日本に行ったことがないから、行くなら最初に鳥取へ行くはずがない」と説明した。鳥取よりも東京、大阪、京都などの大都会、または良く知られた日本の観光地を希望するのは当然でもあろう。このため、鳥取県への中国人観光客誘致については、リピーター層に焦点を絞ることがより重要であるものと考えられる。こうしたリピーターを誘致するためには魅力的な観光資源をアピールするだけではなく、特別な観光テーマを打ち出すことも重要である。例えば、漫画コース、温泉体験、自然(砂丘)観光などのことである。現在、中国人観光客の殆どは初めての日本観光であるが、今後、リピーターの増加も期待できる。

第5に、さまざまな形の交流によって観光を促進すること。筆者のヒアリングと調査の中で、多くの学者、専門家が、単なる観光客の増加のために観光業を発展させるのではなく、交流を通じた観光を促進すべきであると述べた。交流は相互理解を促進させる上、単純な観光、特に団体観光に対する制限を避けることも可能である。交流活動といえば、小中学校の修学旅行、スポーツ活動、姉妹都市の市民交流などが上げられる。ますます重視

されるMICE (Meeting, Incentive, Convention/Conference & Exhibition) もその1つといえよう。鳥取県と吉林省は友好交流関係があり、活発な交流活動を通じて、吉林省からの観光客を誘致することが期待される。

## 7. 結 び

中国人観光客の数が大幅な増加にあり、これを後押しする政策改正によって、この傾向は引き続き保たれるものと考えられる。鳥取県にとって、中国人観光客は潜在的な有望市場である。調査結果が示したとおり、吉林省長春市の市民にとって、鳥取県の観光資源は十分に魅力を持って、特に違った自然環境、山、海、温泉などは人気を呼んでいる。半数以上の回答者が、条件がそろえば鳥取へ観光に行く意向を表した。鳥取独特の観光資源に基づいて、ニーズに応えた観光コースを設計して、既存の国際交通を改善すれば、中国からの観光客の増加は十分期待できるものと考えられる。

### <謝辞>

本稿を作成する上で、とっとり政策総合研究センター、鳥取県文化観光局、吉林大学東北亜研究院の担当者様にご協力をいただきました。この場合を借りて御礼申し上げます。

### <参考文献>

- 国家旅遊局. 2001. 『中国旅遊發展「十五」計画と2015年、2020年遠景目標綱要』中国旅遊出版社.
- 杜 江など. 2004-2006. 『中国出境旅遊發展年度報告書』旅遊教育出版社.
- 中国社会科学院. 2002-2008. 『旅遊綠皮書』社会科学文献出版社.
- 張 輝. 2002. 『旅遊經濟論』旅遊教育出版社.
- 独立法人国際観光振興機構 (JNTO). 2007. 『国

際観光白書—世界と日本の国際観光交流の動向』.

日本政府観光局 (JNTO). 2008. 『国際観光白書—世界と日本の国際観光交流の動向』.

「富士産経商報」、2008年9月7日。

汪徳根. 2004. 「德国出境旅游市场比较优势与市场拓展对策」『经济地理』24.

梁春香. 2008. 「中国の国際観光動向と訪日観光事情—その特徴と背景」『中国21』. 29.

Wang Xiaofeng (2007), The Scale Situation, Tendency and Main Influential Factors of Chinese Citizen's Traveling to Japan. 『環日本海地域における観光ソフト・インフラの基盤整備に関する研究』、平成16年度～18年度科学研究費補助金研究成果報告書、東洋大学国際地域学部国際観光学科、2007年。

UNWTO (1997), 2020 Vision, a report prepared for a meeting in Turkey, in News/Feb-March. www.world-tourism.org.